

県内企業景気動向調査報告（2024年7～9月期）

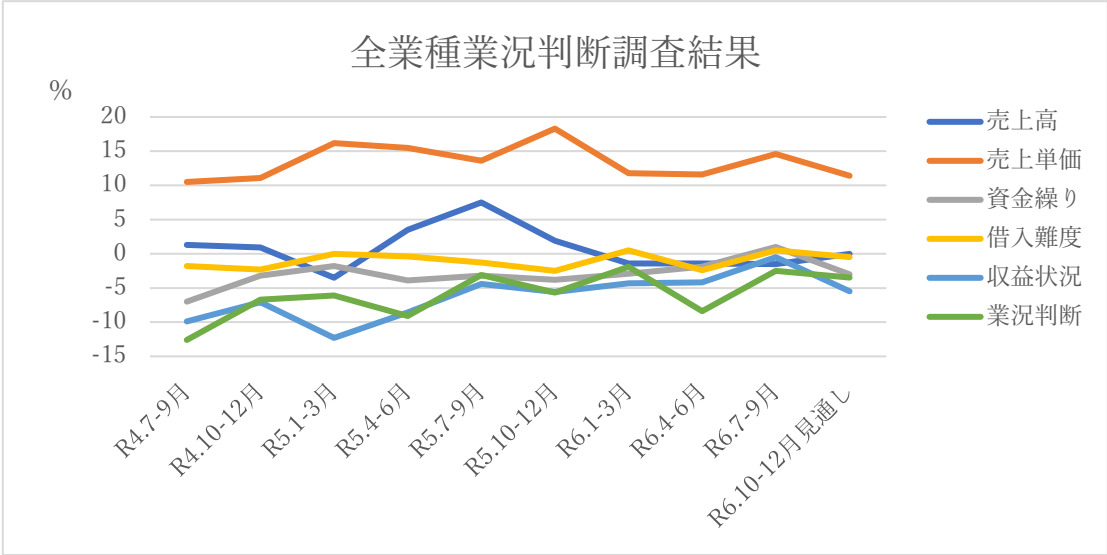
今期の「業況判断」は上昇、来期は下降する見通し

調査対象	鳥取県内企業（鳥取県下4商工会議所の調査による）
回収数	101社【製造業30社、非製造業71社（建設業23社、卸売業18社、小売業17社、サービス業13社）】

＜今期・来期の状況＞

全業種における今期の状況は「売上単価」「資金繰り」「借入難度」「収益状況」「業況判断」の5つの項目で前期よりも上昇している。最も上昇を示したのは「業況判断」で、前期から5.9ポイント上昇した。業種別の「業況判断」では、製造業が前期から2.9ポイント上昇、非製造業が7.2ポイントの上昇を示した。非製造業は建設業と卸売業と小売業が上昇傾向を示しており、最も上昇が大きかったのは建設業で、前期から12.3ポイントの上昇となっている。

来期の見通しについては、「売上高」が上昇、「売上単価」、「資金繰り」、「借入難度」、「収益状況」、「業況判断」で下降が見込まれている。中でも「売上単価」は3.2ポイントと最も大きい下降が予測されている。業種別の「業況判断」では、製造業、卸売業で上昇、建設業と小売業で下降する見通しとなり、最も変化が大きいと予測されているのは卸売業の建設業の8.7ポイントの下降であった。



前年同期比*()内は2023. 7～9月期の数字								来期(2024. 10～12期)見通し*()内は前年同期の数字							
	回収率	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断		
全産業合計	101	-1.5 (7.5)	14.6 (13.6)	1.0 (-3.2)	0.5 (-1.3)	-0.5 (-4.4)	-2.5 (-3.1)	0.0 (2.7)	11.4 (12.1)	-3.0 (-3.2)	-0.5 (-0.5)	-5.5 (-2.7)	-3.5 (-2.3)		
製造業	30	-8.3 (17.2)	10.0 (21.9)	0.0 (-6.3)	-3.3 (-6.3)	-3.4 (3.2)	-1.7 (1.6)	8.4 (9.4)	11.7 (15.6)	-3.4 (-1.6)	-3.4 (-1.3)	-8.4 (4.7)	0.0 (4.7)		
非製造業	71	0.7 (3.7)	16.0 (10.4)	1.4 (-1.9)	2.1 (0.7)	0.0 (-7.3)	-2.8 (-4.9)	-3.5 (0.0)	11.1 (10.6)	-2.9 (-3.9)	0.8 (1.3)	-4.2 (-5.7)	-4.9 (-5.0)		
(建設業)	23	8.3 (-12.5)	6.3 (-4.2)	10.4 (-6.3)	2.2 (0.0)	10.5 (-16.7)	10.9 (-10.4)	0.0 (2.1)	6.3 (2.1)	2.1 (-6.3)	2.1 (-2.1)	4.2 (-4.2)	2.2 (-6.3)		
(卸売業)	18	-5.6 (18.4)	25.0 (29.0)	0.0 (2.7)	0.0 (2.7)	-13.9 (2.7)	-16.7 (2.7)	-5.6 (5.3)	13.9 (18.4)	-2.8 (-2.8)	0.0 (2.8)	-8.4 (-8.4)	-11.1 (-5.3)		
(小売業)	17	-11.8 (-2.4)	17.7 (9.6)	-11.1 (-9.5)	-2.8 (-4.8)	-2.9 (-19.1)	-5.9 (-19.1)	0.0 (-7.5)	17.7 (12.5)	-8.8 (-10.0)	-3.0 (-2.5)	-8.8 (-15.0)	-12.5 (-12.5)		
(サービス業)	13	11.6 (16.7)	19.3 (11.1)	4.2 (9.4)	12.5 (6.3)	3.9 (8.4)	-3.9 (11.1)	-11.6 (0.0)	7.7 (11.8)	-4.2 (-6.7)	4.6 (10.0)	-7.7 (5.9)	-3.9 (5.9)		

BSI=1/2(X-Z)、X=上昇・増加、Y=横ばい、Z=減少・下降、ただし(X+Y+Z=100)

BSI=1/2(X-Z)、X=上昇・増加、Y=横ばい、Z=減少・下降、ただし(X+Y+Z=100)

＜直面している経営上の問題点＞

- 1位：原材料・仕入価格上昇（21.28%）
- 2位：経費の増加（17.57%）
- 3位：人手不足（12.50%）
- 4位：売上・受注の減少（11.26%）
- 5位：消費・需要の停滞（8.78%）

<業種別の問題点等>

◆建設業

- ・10/1から一部の材料で値上がりがあり、経費増加が止まらない。中東情勢等不安定材料もあり、材料コストの定着が難しい
- ・建設業の担い手確保のための魅力発信が必要

◆製造業

- ・原油価格に起因する電力料金、ガス料金等のエネルギーコストが高騰したままで、経営を圧迫している。更なる支援や電力会社への値下げ要請をお願いしたい
- ・生産キャパオーバーになるほど受注があるのは有難いが、相変わらず原材料価格は上がり続けており、利益に結び付けていくことが課題である
- ・現状、致し方がない状況、業界によるが工賃など価格転嫁されにくい状況の中、最低賃金の急騰は正直厳しい
- ・モデルチェンジによる原価率アップで収益減少

◆サービス業

- ・7～9月は夏休み、10～12月はカニの売り上げに繋がるものがありますが、今年5月以降は昨年と比べるとやや物足りない状況が続いております。仕入れ類の価格上昇は続いており、毎値上げするわけにもいかず、利益の縮小・赤字の増額の状況が続いております。